

## 学生の視点からみた地域づくりとは

神戸市看護大学 編入4年生 三浦麻美

神戸市看護大学では一年間を通じて市民講座やボランティア活動への参加の募集があり、地域が行っている地域づくり活動や、大学と地域とが協働して行う健康教育への取り組みに学生が参加する機会があります。私はニュータウンが抱える課題に以前から関心があり、昨年、西神ニュータウン研究会の催しである「ふるさととはニュータウン！魅力アップ人・縁卓会議」に参加しました。この会議は、ニュータウンの課題の再考とニュータウンの活性化に向けた活動の一環としての催しで、参加者は20代から80代まで、ニュータウン研究会やシルバー人材センターの方々、大学生、コミュニティ農園やJAZZクラブをされている方、市の職員、大学教員など多彩な方々が集まっておられました。会議では、参加者が西神ニュータウンの目指すふるさと像をあらわすキーワードを各テーブルで話し合い、アイデアを出し合いました。最終的には、『おしょうゆ貸して！』がキーワードとして選ばれましたが、各テーブルに共通してみられた”お互い様と助け合える地域にしたい”という思いが込められています。

地域づくりという自分にはできない大変なことから考えていましたが、話し合っただけで共通のふるさと像を作っていく過程や地域で行われている活動を知る中で、地域に暮らす1人ひとりが地域づくりを担っているのだと感じました。さらに、私は今回の体験で、住民の方々の考え方を尊重しながら地域の主体的な活動を引き出すことが地域看護活動においても重要とされていることを実感し、地域看護により関心を高めることができました。

地域の方々と一緒に地域づくりに参加しながら学ぶ体験は、卒業後では得られない機会だと思います。看護大学の毎日は忙しいですが、在学中にこのような貴重な機会を活用できる環境はとて有意味だと思いますので、おすすめですよ！



健康生活支援技術演習

地域での健康講座

## COC 研究ひろば 第2回

～「もの忘れ看護相談」活動を基盤とした地域住民への支援を考える～ 前編

神戸市看護大学 老年看護学分野 講師 清水昌美

「認知症の高齢者と家族が地域で暮らす力を獲得していく過程と支援のあり方の検討」をテーマに、共同研究に取り組んでいます。本研究は、平成24年度に開設した「もの忘れ看護相談」活動と地域の保健・福祉専門職との共同研究が基盤となっています。「もの忘れ看護相談」は、本学の老年看護学、地域・在宅看護学を専門とする教員が、「専門知識を活かした地域貢献活動がしたい」という思いから、神戸市看護大学まちの保健室事業の1つとして立ち上げました。そして、開設以降、年間4回、もの忘れや認知症に関するミニ講義や個別相談を行い、リピーターを含む118名の講義等への参加と66件の個別相談がありました。

研究的な取り組みとしては、地域の専門職との事例検討会を行い、認知症高齢者とその家族への地域支援体制の構築について検討してきました。これまでの相談・研究活動を通してみてきたのは、医療にも福祉にも結び付いていない軽度認知機能障害のある高齢者やその家族が、今後の不安を抱えながら生活をしている現状や認知症の診断を受け介護保険サービスを利用していても、本人や介護家族の声に耳を傾ける場が十分とはいえない現状、様々な情報が行き交う中でもなお認知症の知識を得たいというニーズなどです。そのような現状にこたえるべく、COC事業における研究では、来談者の方々の承諾を得て相談内容等をデータベース化し、個々のニーズに即した相談活動と同じ悩みを持つ人への情報発信方法について検討しています。次号では、その成果の一部をご紹介します。



「もの忘れ看護相談」のミニ講義風景